

## 留学生として日本に来て

社会建設工学科4年 NYAMPUREV SODBAYAR  
OCHIRDULAM BUYANBAT  
CHOIJILDORJ MANDAKH



私はソドバイル(NYAMPUREV SODBAYAR)と申します。1年前、山口大学工学部でモンゴルの大学との留学制度(ツイニングプログラム)が始まり、山口大学工学部では私たち3人が初めてのモンゴル人留学生として来日しました。モンゴル人の先輩がいないため、わからないことがあったときはちょっと大変でしたが、困った時は日本人のチューターの先生に助けてもらうことができ、チューターの先生がいてくださって本当によかったと思います。

私は母国では家族と一緒に住んでいたのですが、料理や掃除などの家事を自分ですることができず、宇部市に来て一人暮らしが始まるととても困りました。そんな中、宇部留学生交流会が留学生と宇部市民との交流の場として開催している「月例夕食懇談会」に参加して、食事をしたり喋ったりしているうちにいろいろな国の友達ができ、友達ができるとともに色々な文化もわかるようになり、英語もどんどん上達してきました。

私は現在4年生ですが、3年生の時に2年

生の授業も多く受けたので、2年生と3年生の友達がたくさんできました。今は、吉武研究室(コンクリート工学)に入ったばかりですが、先輩たちや同級生のみなさんは本当に優しいのですぐに仲よくなれました。

また、日本に来て、旅行にもよく行きました。大阪、京都、福岡、東京、広島へ旅行したこともあります。

色々なことを経験した今のソドバイルは、モンゴルにいた時のソドバイルより色々な面で本当に強くなれたと思います。



私はブヤンバト(OCHIRDULAM BUYANBAT)と申します。モンゴルの出身です。2015年にモンゴル科学技術大学に入学し、2年半勉強して、2018年に山口大学工学部社会建設工学科の3年生に編入しました。

モンゴルの大学に2年半、日本の大学に1年在籍してみて、両国の大学で違っている点が色々あることがわかりました。たとえば、基礎知識の授業については同じなのですが、研究室に関する事で違いがあります。日本

では4年生になったら研究室に入りますが、モンゴルでは研究室というものがありません。また、日本の大学は、モンゴルの大学より実験道具や機械などが充実していてすごいと感じました。

今年4年生になり研究室に配属されたので、より一層勉学に励みたいと思います。



私はマンダフ (CHOIJILDORJ MANDAKH) と申します。モンゴル出身の留学生です。私はウランバートルで育ち、高校を卒業後モンゴル科学技術大学に入学し、ツイニングプログラム制度を利用することにしました。大学入学時は、日本語は全くわかりませんでした。日本人の先生と日本語が上手なモンゴル人の先生のおかげで2年経った頃には日本人の先生の話がわかるようになりました。モンゴルで、EJUという試験とTOEICのテストを

受け、10校くらいの候補の大学の中から山口大学を選んで面接を受けました。山口大学を選んだ理由は、山口大学に東アジア国際コースがあることでした。また山口は自然災害が少なく、自然が美しいということもありました。また、2年半ほど一生懸命がんばって勉強したことで国から奨学金を受けられることになりました。

来日前に一生懸命勉強したこともあり、日本語の問題はほとんどないだろうと思っていました。しかし、いざ日本に来てみると、大学の先生の話はよくわかったのですが、学生たちの話はほとんどわからなくて驚きました。先生が授業で使う日本語と学生たちが日常会話で使う日本語は大きく異なることを知りました。

また、生活環境についても、宇部と私の育った地域では大きな違いがあります。宇部は夜の8時以降は極めて静かになりますが、私の故郷の地域はととにもぎやかです。

今、私は4年生になったばかりで、鋼構造を勉強する研究室に入り、鋼構造の錆びについて詳しく学んでいきます。これから研究室の学生たちと仲よくなりたいと思います。大学生活は残すところあと1年となりましたが、先生方、研究室の皆さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

